

総合的な学習の時間 「福祉体験学習における分科会」

南足柄市立足柄台中学校



単元（題材）目標

- 障がいがある当事者と直接触れ合う体験を通して、「障がい者」と「健常者」という分け方ではなく、同じ社会のなかで共に生活している人間であるという「当事者性」の意識づけを図り、福祉を身近なテーマとしてとらえる。

（1）実施時期

令和元年 11 月 6 日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第 1 学年 40 名、教員 2 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第 1 学年所属 2 名

外部講師 手話サークルひまわり 8 名、南足柄市社会福祉協議会職員 1 名



（4）実施内容

- ①自己紹介～誰が聞こえる人か？～：生活の音を考える
- ②聴覚障がい者の生活：聴覚障がい者の生活をクイズ形式で学ぶ
- ③聴こえない人と話をする方法：多様なコミュニケーション方法を知る
- ④ろう者の話を聞く：手話やジェスチャーを使って話す
- ⑤伝えてみよう：生徒がジェスチャーで伝えあう
- ⑥グループワーク：手話で話そう
- ⑦質疑応答：災害の時にはどうするか。手話は新しくなるのか。などについて

（5）成果〈子どもの学び〉

- 聴覚障がいは、見た目では分からない障がいであることを理解できた。
- 手話は難しいというイメージを持っていたが、筆談やジェスチャーを通して、コミュニケーションをとるには様々な方法があるということを知ることができた。
- 災害時等には、自分たちから積極的に関わっていく態度を養うことができた。
- グループ別で手話を教えてもらうことで、自分の興味のあることを手話で表すことができ、手話によるコミュニケーションの楽しさを知ることができた。

（6）その他〈子どもの感想〉

- 総合的な学習の時間の福祉教育の一環として、グループに分かれ実施した。